

平成27年度入学試験問題（後期日程）

# 小 論 文

医学部 保健学科

## 注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

**非公開**

非公開

(田中まゆみ 著, 『ハーバードの医師づくり』, 医学書院, 2003 年, 70~75 ページ, 83 ページ, 96 ページ抜粋・一部改変)

注釈

- 1) クリニカル・クラークシップ (clinical clerkship) : 医学教育における, 従来の見学型臨床実習とは異なり, 学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し, より実践的な臨床能力を身に付ける臨床参加型実習のこと。
- 2) 問診 : 医師や看護師等が診断の手がかりを得るために, 患者に現在の病状やこれまでにかかった病気などをきくこと。
- 3) ACE 阻害薬 : ACE (アンジオテンシン変換酵素 : 血圧調節に関与している酵素) を阻害し, 血圧を下げる高血圧治療薬。
- 4) ダークサイド : 「裏の面」や「暗闇の部分」。副作用の意味もある。
- 5) ダナ・ファーバー事件 : 1994 年 12 月, ハーバード大学医学部の関連施設であるダナ・ファーバー癌研究所で, 抗癌剤の治験中の患者の一人が死亡し, 一人が重症心不全に陥った。翌年 2 月, 治験データを整理していた事務員が 4 倍も過剰投与していたミスに気づき, すぐに病院幹部が患者・家族・遺族に説明し謝罪した。調査委員会が設置され, 2 年次フェロー (一般内科研修を終了した専門科研修医) が指示した薬用量に薬剤師がいったんは疑問を呈してストップをかけたのだが, プロトコルの記載が 1 クール量か 1 回量かあやふやだったため, 「大量投与の臨床治験だからこんなに大量に投与するのだろう」とそのまま投与してしまったということがわかった。世界でも最高水準の癌研究所で起きたこの医療事故との対応・調査の徹底ぶりは, 「ダナ・ファーバー事件」として今や医療事故のモデルとなった。

- 問1 下線部①医療は検査・治療ともアグレッシブになりの意味を, 70 字以上, 100 字以内で説明しなさい。
- 問2 下線部②「薬のミスは医療被害の中でも最多でしかも予防可能だから, 関わる人すべてに注意義務があるのだ。」とはどのような状況か, 150 字以上, 200 字以内で説明しなさい。
- 問3 下線部③「フェイル・セーフ (fail safe) 理論」が医療に導入された背景について, 文中の表現を用いて 250 字以上, 300 字以内で説明しなさい。
- 問4 本文を読んで, 保健医療の現場に求められる, より望ましい危機管理のありかたについて, あなたの考えを 150 字以上, 200 字以内で述べなさい。

平成27年度入学試験問題（後期日程）

## 小 論 文

医学部 保健学科

### 出 題 の 意 図

本学科のアドミッションポリシーは、看護、臨床検査、国際・地域保健等の分野でリーダーシップを発揮し、活躍できる人材の育成を目指す。そのため、これからよき医療人への道を選択しようとする学生たちに必要な資質である、生命を尊重する倫理観や相手の立場に立ったリーダーシップ、他者と協働でき、論理的に思考し、客観的解決の意欲がある等の資質や適性をみるため、このような問題を出題した。